

薬が体の中に入って、効くようになって



薬によって「1日1回」や「1日3回」と飲む回数が違うのはなぜですか？
毎日同じ薬を飲み続けると体の中は薬でいっぱいになりませんか？ 大きな錠剤は砕いて飲んでも効き目は変わりませんか？
改めて聞かれると薬について不思議に思うことがあると思います。このような疑問を解決し、薬を安全に使用するために、「薬が効いている」というのはどういう状態か、薬は体の中をどのように動くのか考えてみましょう。

薬の形と経路

薬にはさまざまな形があります。飲み薬には錠剤やカプセル剤、粉薬、顆粒剤、シロップ剤などがあり口から体に入ります。注射薬は直接、静脈・動脈の血管や筋肉、皮下に入ります。外用剤には点眼剤、点鼻剤、スプレー剤、軟膏剤、貼付剤、坐剤などがあり、目、鼻、気管、舌下、皮膚、肛門などに使用されます。

病状によって使われる薬の形を選ぶため、同じ成分の薬でも飲み薬であったり、注射薬であったり、貼付剤であったりします。例えば、意識のない重症の患者さんには飲み薬ではなく、注射薬を使う、というような感じ

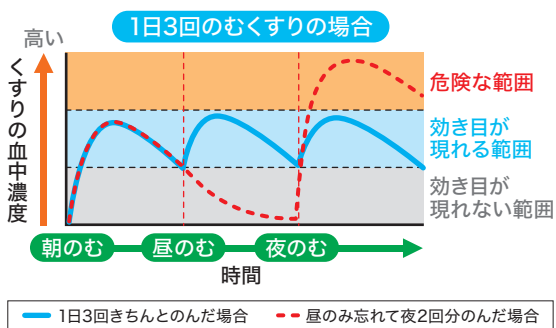
薬の吸収→分布→代謝→排泄

薬は体内に吸収されてから、必要な場所で必要な効き目を発揮します。

飲み薬の場合、口から入った薬は胃で溶け、小腸で吸収されます。吸収された薬は、血液循環系に入り、全身を巡って効き目を発揮します。血液中を巡った薬の多くは、肝臓に運ばれて分解され、腎臓を通過して尿として排泄されたり、肝臓から分泌される胆汁に混じって便と一緒に排泄されたりします。

薬が効いているということは、薬が血液中で効く濃度に達しているということです。薬が効く濃度や体から排泄される時間は薬によって違い

す。そのため時間が経って血液中の濃度が下がってくる頃に、次の薬を飲んで濃度を上げる必要があります。逆に血液中の濃度が高過ぎると、効果が強過ぎたり、副作用が出たりすることがあります。適切な濃度をコントロールするために、1日の飲む回数を守ることが大切です。【図】



のみ忘れたからといって2回分のものはダメ！

同じ錠剤やカプセル剤でも、飲んだ後、胃を通過して小腸に入ってから溶け出すようにした腸溶錠(カプセル)や、溶けるのに長い時間がかかるようにして、ゆっくり吸収させる長く効くようにする徐放錠などもあります。このようなタイプの薬はつぶしたり噛まずに飲まなければなりません。

薬の効きに影響するもの

①食事：例えば牛乳とテトラサイクリン系の抗生物質を一緒に飲むと牛乳のカルシウムと薬がくっついて吸収されにくくなり、効果が弱くなります。

また、グレープフルーツジュースとカルシウム拮抗薬という血圧を下げる薬と一緒に飲むと、グレープフルーツジュースに含まれる成分が、カルシウム拮抗薬の分解(代謝)を抑えるため、血圧を下げる効果が長く続きます。

②飲み合わせ：一緒に飲むことで薬の効果が必要以上に強くなったり、逆に弱くなったりする組み合わせがあります。専門的には「相互作用」と呼びます。

薬を安全に使ったために

薬は誰にも同じように効くわけ

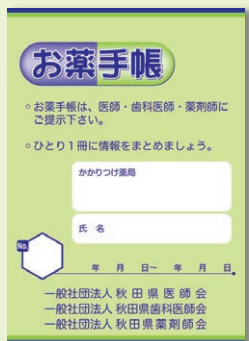
ではありません。代謝や排泄も人によって差があり、効き目が現れる量でも、年齢によって違います。また、同じ人でも、年齢によって薬の効き方が変わります。薬を安全に使うためには、その方のその時の状態に合わせて選んだ薬を、医師や薬剤師の指導や決められた用法用量通りに使うことが大切です。

一般的な薬の話を見せていただきましたが、薬によっては特別な使い方や働き方をするものもあります。薬の使い方に迷ったら、自己判断せず医師や薬剤師に相談してください。(もなみ薬局 木村佐代子)

薬の効果を高める工夫

薬は「必要な時に、必要な量を、必要な場所に」届けることが理想です。

くすりの「安全な服用」 まずは、お薬手帳の 提示から！



お薬手帳

処方せんの有効期限は
処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会

秋田市千秋久保町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail info@akiyaku.or.jp http://www.akiyaku.or.jp